

各 位

上場会社名	ザインエレクトロニクス株式会社
代表者	代表取締役社長 飯塚哲哉
(コード番号)	6769)
問合せ先責任者	取締役経営企画部長 高田康裕
(TEL)	03-3270-0666)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,795	763	788	462	3,801.28
今回発表予想(B)	5,896	1,224	1,298	812	6,670.88
増減額(B-A)	101	461	510	350	
増減率(%)	1.7	60.2	64.6	75.5	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	4,589	412	304	183	1,503.01

平成21年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,000	1,405	1,455	845	6,938.81
今回発表予想(B)	12,000	1,686	1,736	1,073	8,810.37
増減額(B-A)	0	281	281	228	
増減率(%)	0.0	20.0	19.3	27.0	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	9,720	1,015	764	486	3,993.09

平成21年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,795	790	815	489	4,015.44
今回発表予想(B)	5,896	1,268	1,339	853	7,007.65
増減額(B-A)	101	478	524	364	
増減率(%)	1.7	60.5	64.3	74.5	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	4,589	416	308	187	1,535.93

平成21年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,000	1,396	1,446	839	6,891.24
今回発表予想(B)	12,000	1,691	1,741	1,077	8,847.21
増減額(B-A)	0	295	295	238	
増減率(%)	0.0	21.1	20.4	28.4	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	9,720	1,022	770	492	4,047.02

修正の理由

当社は2007年から当期に至る中期方針「Act3-3-3」を掲げ、目標を変えず、その達成に向けた不断の取組を行っています。2009年におけるこれら新製品関連の売上総利益の合計を45億円の水準へと段階的に引き上げ、利益力を向上することを狙っています。

当社が関連するテレビ事業においては、厳しい価格低下と高付加価値製品へのシフトが生じています。中間期においては、経済情勢の不透明さの中における厳しい低価格化にもかかわらず、平成21年5月13日に業績予想の修正を発表した時点での想定をさらに上回る出荷増加見込まれることから、この度、業績予想を修正することとしました。

通期においては、不透明かつ厳しい経済情勢が見込まれながらも当社製品の出荷数量の増加に伴い「Act3-3-3」の目標達成が見込まれること、研究開発を加速する計画を維持することにより、業績予想を修正します。

フルHDテレビや倍速テレビに対応した表示制御用LSIを始めとする研究開発品ビジネスにおいては、フルHDテレビ対応製品を積極的に拡販するとともに、当期における新製品の市場投入・拡販、さらに当期に事業譲受を完了した画像処理用LSI事業の積極展開を通じて今期における「Act3-3-3」の達成を図る方針です。

これらにより、当中間期の連結売上高は58億96百万円(前回予想比1.7%増、前年同期比28.5%増)、連結売上総利益は28億28百万円(前回予想比12.1%増、前年同期比52.5%増)となり、2002年新規株式公開後の上期の売上総利益として最高益となる見込みです。通期の連結売上高は120億円(前回予想と同額、前年同期比23.5%増)、連結売上総利益は52億円(前回予想比8.3%増、前年同期比34.2%増)となる見込みです。

また、通期においては、「Act3-3-3」の実現に向けて研究開発プロジェクトを厳選したうえで、来期以降における事業戦略の範囲を拡大させる目的で研究開発を行う観点から23億28百万円(前期比26.8%増)支出する計画としました。フルHDテレビや4倍速テレビ向けの研究開発などを実施するほか、V-by-One(R)HSや画像処理用LSIの開発など、来期の事業戦略範囲の拡大につなげてまいります。

なお、当社は第1四半期において、ウィンボンド・エレクトロニクス社から事業譲受を完了しましたが、携帯電話の高解像度デジタルカメラで使用される画像処理用LSI事業の展開を行うとともに、8百万画素以上の高解像度に対応した画像処理を行うLSI技術の開発を行い、事業譲受完了後の相乗効果が早々に得られてきたことから、新製品の開発を一層効率化し、また、既存の技術分野との新たなシナジー創出を加速するため、本年7月1日付で当初予定より大幅に繰り上げてISP開発チームを当社に統合しました。また、業務効率の向上と新製品開発スピードの一層の加速を図るため、平成22年1月中に本社を移転することとしました。

なお、本年6月23日付で当社代表取締役飯塚哲哉が当社取締役他に株式を贈与し持株比率を調整したことに伴い、内部留保金課税の対象企業から外れることとなりました。

以上により、最新の市場環境に鑑み、業績見通しにつきましては、当中間期において、連結営業利益は、12億24百万円(前回予想比60.2%増、前年同期比196.9%増)、連結経常利益は12億98百万円(前回予想比64.6%増、前年同期比325.7%増)、連結当期純利益は8億12百万円(前回予想比75.5%増、前年同期比343.8%増)に修正するとともに、通期においては、連結営業利益は、16億86百万円(前回予想比20%増、前年同期比66.1%増)、連結経常利益は17億36百万円(前回予想比19.3%増、前年同期比127.3%増)、連結当期純利益は10億73百万円(前回予想比27.0%増、前年同期比120.6%増)に修正することとしました。

<ご注意>

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により上記予想数値と異なる場合があります。

以上